

奈良原 一高 Ikko NARAHARA

- 1931 福岡県大牟田市生まれ
- 1954 中央大学法学部卒業
- 1955 「制作者懇談会」に参加、池田龍雄、河原温らと交流
池田満寿夫、巖嘯らによるグループ「実存者」に参加
- 1959 早稲田大学大学院芸術（美術史）専攻修士課程修了
- 1959 東松照明、細江英公らとともにセルフ・エージェンシーVIVO を結成（1961年解散）
- 1962 渡欧、パリを中心に3年間滞在（1965年帰国）
- 1966 東京造形大学教授
- 1970 渡米、ニューヨークを中心に4年間滞在（1974年帰国）
- 2020 没

主な個展

- 2022 「奈良原一高一王国 Domains」北海道立函館美術館（北海道）
- 2021 新収蔵展示「奈良原一高の写真」北海道立釧路芸術館（北海道）
- 2020 「生きる歓び」タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルム（東京）
奈良原一高追悼展「消滅した時間」タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルム（東京）
- 「奈良原一高「王国」とVIVOの時代」島根県立美術館（島根）
- 「人間の土地／王国 Domains」JCII フォトサロン（東京）[カタログ]
- 2019 「奈良原一高のスペイン——約束の旅」世田谷美術館（東京）[カタログ]
「Japanesque」La Vieille Eglise Saint-Vincent de Merignac（メリニャック、フランス）
- 2018 「《人間の土地》とグループ「実在者」」島根県立美術館（島根）
「肖像の風景」島根県立美術館（島根）
- 2016 「ヴェネツィアの夜」タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルム（東京）
「消滅した時間」（第1部：近くて遙かな旅 1954 - 1974、第2部：眺めの彼方 1970 - 2002）
フジフィルム スクエア（東京）
- 2015 「静止した時間」タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルム（東京）
- 2014 「王国」東京国立近代美術館（東京）[カタログ]
- 2010 「手のなかの空 奈良原一高」島根県立美術館（島根）[カタログ]
- 2004 「IKKO NARAHARA」Photo Forum（ビエンヌ、スイス）

- 「円」新宿ニコンサロン（東京、11月9日-22日）；その後 大阪ニコンサロン（大阪、12月16日-28日）へ巡回
- 2003 「HEAVEN - [天]」フォト・ギャラリー・インターナショナル（東京、5月8日-30日）；その後
ギャラリーRAKU（京都、6月10日-22日）；九州産業大学美術館（福岡）へ巡回
- 2002 「王国」島根県立美術館（島根）
「Ikko Narahara」Maison Européenne de la Photographie（パリ、フランス）[カタログ]
- 2000 「Zen」Piccolo Teatro Strehler（ミラノ、イタリア）
「人間の土地」島根県立美術館（島根）
- 1999 「円 En - 7 Heavens + Circular Vision」バーソウ・フォト・ギャラリー（東京）
- 1998 「消滅した時間」フォト・ギャラリー・インターナショナル（東京、3月24日-4月24日）；そ
の後 ギャラリー807（北海道、5月14日-26日）他へ巡回
- 1997 「ポケット東京 1992 - 1997」コニカプラザ 東ギャラリー（東京）
「消滅した時間」台中撮影芸廊（台湾）；その後 台北撮影芸廊（台湾）へ巡回
- 1995 「ポケット東京」コニカプラザ 西ギャラリー（東京）
「東京スカイライン - ヴァーティカル・ホライズン」コニカプラザ 西ギャラリー（東京）
「Tokyo, the '50s」モール（東京）
- 1994 「ブルー ヨコハマ」パスト・レイズ・フォトギャラリー（神奈川）
「1万5千回の夜の間に」プラザ・ギャラリー（東京）
- 1991 「ブロードウェイ」フォト・ギャラリー・インターナショナル（東京）
「復活の都市」フォト・ギャラリー・インターナショナル（東京）
- 1989 「天頂の街・ベルガモ」ウナック・サロン（東京）
- 1987 「人間の土地」フォト・ギャラリー・インターナショナル（東京、4月1日-28日）；その後 ピ
クチャー・フォト・スペース（大阪）へ巡回
「無国籍地」ウナック・サロン（東京）
「星の記憶」パルコギャラリー（東京）
- 1986 「デジタル・シティー」銀座ニコンサロン（東京、5月13日-18日）；その後 新宿ニコンサ
ロン（東京、5月20日-26日）；大阪ニコンサロン（大阪、7月1日-7日）へ巡回
- 1985 「Ikko Narahara」Fotographia' 85（トリノ、イタリア）
「光と闇・二つの世界」Walkerhill Art Center（ソウル、韓国）
「肖像の風景」有楽町朝日ギャラリー（東京）
- 1984 「Ikko Narahara」Foto' 84（アムステルダム、オランダ）
「ポラロイド 20" ×24"」池袋西武アート・フォーラム（東京）
- 1983 「奈良原一高写真展 詩・写真集『空気遠近法』発刊記念」池袋西武・ガレリア粋（東京）
「夜行都市・ベネチア」銀座ニコンサロン（東京、5月10日-15日）；その後 新宿ニコンサロ
ン（東京、5月17日-23日）；大阪ニコンサロン（大阪、6月1日-7日）へ巡回
- 1982 「光の回廊ーサン・マルコ出版記念展」パルコビュー・ギャラリー（東京）
- 1981 「IKKO NARAHARA」Photographer' s Gallery（ロンドン、イギリス）

- 1980 「ベネチアの光」新宿ニコンサロン（東京、11月1日-7日）；大阪ニコンサロン（大阪、11月1日-7日）へ巡回
「光と波と一奈良原一高による朝倉響子彫塑写真集刊行記念」丸善画廊（東京）
- 1979 「近くて遙かな旅」銀座ニコンサロン（東京、10月2日-7日）；その後 新宿ニコンサロン（東京、10月9日-15日）；飯田画廊別館（東京、10月1日-14日）；ウナック・サロン（東京、10月1日-14日）；大阪番画廊（大阪）へ巡回
「光の回廊ーサン・マルコ」和光ホール（東京）
- 1977 「ブロードウェイ’ 73ー’ 74」飯田画廊別館（東京）
- 1975 「静止した時間」写大ギャラリー（東京）
「IKKO」ライト・ギャラリー（東京）
- 1974 「IKKO’ S AMERICA」ニコンサロン銀座（東京）
- 1973 「世界批評家選抜展」Neikrug Gallery（ニューヨーク、ニューヨーク州、アメリカ）
「IKKO」Neikrug Gallery（ニューヨーク、ニューヨーク州、アメリカ）；その後 ニコン・ハウス（東京）；George Eastman Museum（ロチェスター、ニューヨーク州、アメリカ）へ巡回
- 1972 「生きる歓び」西武百貨店（東京）
- 1970 「スペイン・偉大なる午後」池袋西武百貨店（東京）
- 1965 「スペイン・偉大なる午後」富士フォトサロン（東京、10月7日-20日）；壺番館画廊（東京、10月7日-20日）へ巡回
- 1960 「カオスの地」富士フォトサロン（東京）
「ブルー ヨコハマ」月光ギャラリー（東京）
- 1959 「城」丸の内ギャラリー（東京）
- 1958 「王国」富士フォトサロン（東京、9月9日-15日）；富士フォトサロン（大阪、9月9日-15日）へ巡回
- 1956 「人間の土地」松島ギャラリー（東京）

主なグループ展

- 2022 「アートに耳をかたむけて 絵画と彫刻から聞こえる「音」」北海道立釧路芸術館（北海道）
「男と女」島根県立美術館（島根）
「受贈記念 奈良原一高×勝井三雄」島根県立美術館（島根）
「Earth: A Retrospective」Bombas Gens Centre d’ Art（バレンシア、スペイン）
「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」両足院（京都）
- 2020 「The Gaze of Things: Japanese Photography in the Context of Provoke」Círculo de Bellas Artes（マドリード、スペイン）
- 2019 「MOMAT コレクション」東京国立近代美術館（東京）
「窓展：窓をめぐるアートと建築の旅」東京国立近代美術館（東京）[カタログ]

- 「浅間国際フォトフェスティバル PHOTO MIYOTA」 (長野)
- 「JCII フォトサロンコレクション展」 JCII フォトサロン (東京) [カタログ]
- 「The Gaze of Things: Japanese Photography in the Context of Provoke」 Bombas Gens Centre d' Art (バレンシア、スペイン、2019年2月22日-2020年2月2日) [カタログ]; その後 Círculo de Bellas Artes (マドリッド、スペイン、2020年7月3日-8月30日) へ巡回
- 2018 「建築×写真 このみに在る光」 東京都写真美術館 (東京) [カタログ]
- 「遠くへ行きたい」 東京国立近代美術館 (東京)
- 清里フォトアートミュージアム収蔵作品展 「原点を、永遠に。-2018-」 東京都写真美術館 (東京)
- 「奈良原一高 スペイン」 高浜市やきものの里かわら美術館 (愛知)
- 2016 「Black Sun/Red Moon: Pictures from Japan」 Ratio 3 (サンフランシスコ、カリフォルニア州、アメリカ)
- 2009 「日本の自画像 写真が描く戦後 1945~1964」 世田谷美術館 (東京、5月2日-6月21日) ; その後 土門拳記念館 (山形、8月27日-10月28日) ; 愛知県美術館 (愛知、11月6日-12月13日) ; 清里フォトアートミュージアム (山梨、2010年6月5日-8月31日) へ巡回 [カタログ]
- 2007 「VIVO」 写大ギャラリー (東京)
- 2004 「In the Center of Things」 Center for Creative Photography (ツーソン、アリゾナ州、アメリカ)
- 2003 「日本写真の歴史」 The Museum of Fine Arts, Houston (ヒューストン、テキサス州、アメリカ) [カタログ]
- 「日本の写真 1945 - 1975」 Hôtel de Sully (パリ、フランス)
- 「VIVO」 島根県立美術館 (島根)
- 2002 「写真と 20 世紀の風景」 東京国立近代美術館 (東京)
- 2001 「ギリシャ・フォトフェスタ The Spirit of Religion」 Photographic Center of Skopelos (スボラデス、ギリシャ)
- 「Viva! ITALIA」 東京都写真美術館 (東京) [カタログ]
- 「Peace Art ポスター」 Felissimo Design House (ニューヨーク、ニューヨーク州、アメリカ、12月20日-2002年1月13日) ; その後 東京、その他へ巡回
- 「馬へのオマージュ」 東京都写真美術館 (東京) [カタログ]
- 1999 「写真表現の軌跡 - 1950年代から現在まで」 東京都写真美術館 (東京) [カタログ]
- 1998 「戦後日本のリアリズム 1945 - 1960」 名古屋市美術館 (愛知) [カタログ]
- 1996 「1953年 ライトアップ 新しい戦後美術が見えてきた」 目黒区美術館 (東京) [カタログ]
- 1995 「写真都市・TOKYO」 東京都写真美術館 (東京) [カタログ]
- 「澁澤龍彦画廊」 日動画廊 (東京)
- 「Hyogo Aid '95 by Art: 23 Artists」 日本各地へ巡回

- 1994 「Reflection of Venice」 Princeton University Art Museum (プリンストン、ニュージャージー州、アメリカ)
「Quest for the Moon」 The Museum of Fine Arts, Houston (ヒューストン、テキサス州、アメリカ)
- 1993 「時代をひらいた写真家たち 1960 - '70年代」 東京都写真美術館 (東京) [カタログ]
- 1991 「54 Master Photographers of 1960 - 1979」 International Center of Photography (ニューヨーク、ニューヨーク州、アメリカ)
「Venice」 Nieuwe Kerk (アムステルダム、オランダ)
「日本写真の転換 1960年代の表現」 東京都写真美術館 (東京) [カタログ]
「写真の1955 - 65」 山口県立美術館 (山口) [カタログ]
- 1990 「東京 - TOKYO」 有楽町西武アート・フォーラム (東京)
「International View Point」 The Museum of Fine Arts, Houston (ヒューストン、テキサス州、アメリカ)
- 1987 「写真1945 - 1985」 Museum für Kunst und Gewerbe Hamburg (ハンブルク、ドイツ)
「魅惑のヴェネツィア」 プランタン銀座 (東京、12月26日-1988年1月19日) ;その後 大丸ミュージアム (大阪、1988年2月17日-29日) へ巡回
- 1986 「Houston Foto Fest Biennial Exhibition: Houston and the Rodeo」 (ヒューストン、テキサス州、アメリカ)
「JAPON DES AVANT GARDES 1910-1970」 Centre Pompidou (パリ、フランス)
- 1985 「パリ・ニューヨーク・東京」 つくば写真美術館'85 (茨城)
「Génération Polaroid」 Pavillon des Arts (パリ、フランス)
- 1982 「20世紀の写真・ニューヨーク近代美術館コレクション展」 西武美術館 (東京) [カタログ]
「国立国際美術館所蔵展」 国立国際美術館 (大阪)
- 1981 「Das Imaginare Photo-Museum」 Photokina (ケルン、ドイツ)
「VIVO展1959-1962」 写大ギャラリー (東京)
- 1980 「THROUGH」 Galerie Vivienne (パリ、フランス)
「第1回シャルルロワ国際写真トリエンナーレ」 (シャルルロワ、ベルギー)
- 1979 「JAPAN: A Self Portrait」 International Center of Photography (ニューヨーク、ニューヨーク州、アメリカ)
「Fleeting Gestures: Dance Photographs」 International Center of Photography (ニューヨーク、ニューヨーク州、アメリカ)
「Fotografia Giapponese Dal 1848 ad Oggi」 Museo d'Arte Moderna di Bologna (ボローニャ、イタリア)
- 1978 「アルル国際写真フェスティヴァル」 (アルル、フランス)
「VIVO展」 Santa Barbara Museum of Art (カリフォルニア、カリフォルニア州、アメリカ)
- 1976 「Neue Fotografie aus Japan」 Kunsthaus Graz (グラーツ、オーストリア)
「12人の写真家による自薦作品展 写真売ります」 資生堂ザ・ギンザ (東京)

- 1974 「Ten Photographers」 McMaster Museum of Art (オンタリオ、オンタリオ州、カナダ)
- 1973 「NEW JAPANESE PHOTOGRAPHY」 The Museum of Modern Art, New York (ニューヨーク、ニューヨーク州、アメリカ) [カタログ]
- 1968 「日本写真批評家協会賞受賞展」 ニコンサロン (東京)
- 1966 「現代写真の10人」 東京国立近代美術館 (東京)
- 1962 「NON展」 銀座・松屋 (東京)
- 1960 「現代写真」 東京国立近代美術館 (東京)
- 1959 「第2回ヴェネツィア国際写真ビエンナーレ展」 (ヴェネツィア、イタリア)
第3回「10人の眼」 小西六ギャラリー (東京)
- 1958 第2回「10人の眼」 小西六ギャラリー (東京)
- 1957 「国際主観主義写真展」 銀座・松屋 (東京)
「10人の眼」 小西六ギャラリー (東京)

受賞歴

- 2006 旭日小綬章
- 2005 日本写真協会功労賞
- 1996 紫綬褒章
- 1987 第3回東川賞国内作家賞
- 1986 日本写真協会年度賞
- 1968 第18回芸術選奨文部大臣賞 (『ヨーロッパ・静止した時間』)
第9回毎日芸術賞 (『ヨーロッパ・静止した時間』)
- 1967 第11回日本写真批評家協会作家賞 (『ヨーロッパ・静止した時間』)
- 1959 第2回ヴェネツィア国際写真ビエンナーレ銅賞 (《坑夫》)
- 1958 第2回日本写真批評家協会新人賞 (「王国」)
富士プロフェッショナル金賞 (《考える少女》)

主な出版物

- 『ヨーロッパ・静止した時間 WHERE TIME HAS STOPPED』復刊ドットコム、2022年
- 『奈良原一高のスペイン』クレヴィス、2019年
- 『王国 Domains』復刊ドットコム、2019年
- 『HUMAN LAND 人間の土地』復刊ドットコム、2017年
- 『太陽の肖像』白水社、2016年
- 『手の中の空 1954-2004』島根県立美術館、2010年

『円 En - Circular Vision』クレオ、2004年
『時空の鏡』新潮社、2004年
『天 HEAVEN』クレオ、2002年
『ポケット東京』クレオ、1997年
『空 Ku』リプロポート、1994年
『ブロードウェイ』クレオ、1991年
『星の記憶』パルコ出版、1987年
『ヴェネツィアの光』流行通信、1987年
『人間の土地』リプロポート、1987年
『ヴェネツィアの夜』岩波書店、1985年
『肖像の風景』新潮社、1985年
『空気遠近法』（詩・田村隆一）現代版画工房、1983年
昭和写真・全仕事シリーズ9『奈良原一高』朝日新聞社、1983年
『光の回廊ーサン・マルコ』ウナック・トウキョウ、1981年
『写真の時間』工作舎、1981年
『光と波と』パルコ出版、1980年
『日本の美・近くて遥かな旅』集英社、1979年
『王国』朝日ソノラマ、1978年
『SEVEN FROM IKKO』ウナック・トウキョウ、1977年
『消滅した時間』朝日新聞社、1975年
カメラ毎日別冊『生きる歓び』毎日新聞社、1972年
『EUROPEー筑摩フォトギャラリー』筑摩書房、1971年
「映像の現代」第1巻『王国』中央公論社、1971年
『ジャパネスク』毎日新聞社、1970年
『スペイン・偉大なる午後』求龍堂、1969年
『ヨーロッパ・静止した時間』鹿島研究所出版会、1967年

主なパブリック・コレクション

フランス国立図書館（パリ、フランス）
ハンブルク美術館（ハンブルク、ドイツ）
国際写真センター（ニューヨーク、ニューヨーク州、アメリカ）
北海道立釧路芸術館（北海道）
ヨーロッパ写真美術館（パリ、フランス）
ボストン美術館（ボストン、マサチューセッツ州、アメリカ）
ヒューストン美術館（ヒューストン、テキサス州、アメリカ）

ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、ニューヨーク州、アメリカ）

国立国際美術館（大阪）

東京国立近代美術館（東京）

プリンストン大学美術館（プリンストン、ニュージャージー州、アメリカ）

世田谷美術館（東京）

島根県立美術館（島根）

台北市立美術館（台北、台湾）

多摩美術大学図書館（東京）

東京都写真美術館（東京）

横浜美術館（神奈川）